

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4 年 3 月 30 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490500422		
法人名	医療法人 健応会		
事業所名	グループホーム やまびこの里		
所在地	広島県呉市焼山南1丁目7番10号 (電話) 0823-27-3787		
自己評価作成日	令和4年3月4日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490500422-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和4年3月25日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

食事の準備や食器洗い、洗濯物や掃除など、各入居者に応じた家事的役割を提供し一緒に行うことで、やりがいを持って生活していただけるように心掛け、家庭的な個別ケアの充実に力をいれている。また、習字や園芸・畑仕事などこれまでの趣味活動を続けていけるよう日々の会話から情報収集し、レクリエーションに繋げている。基本、ユニットごとにスタッフは固定にしているため、入居者とスタッフ間に馴染みの関係が出来ていることから、表情や仕草・行動などから入居者の想いを汲み取り、心に寄り添うケアを行っている。毎月その月にちなんだ行事を企画し、季節感を忘れず生活にメリハリをつけて頂くよう努めている。庭に洗濯物を干しに出たり水やりを一緒にするなど、短時間でも散歩に出る時間を作るようにし、外の空気を楽しんで頂けるよう心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所理念・介護職の倫理に沿って、職員は利用者に対し、人生の先輩として敬意を持ちその人の個性を大切に、個々にやりたい事や趣味活動が継続するよう日頃の生活の中で支援をしている。主に家庭的な雰囲気の中での役割を通じ、昼の手作り調理時は職員と会話をしながら各々の役割分担が自然な形で定着している。おやつ時には、団子を丸めて名物焼き饅頭風にしたり、粉からのうどん作り時の足踏みなど企画し、生活の中に楽しみと変化を取り入れ、心身の機能を維持するよう工夫している。また荒れ地を耕して利用者と共に畑作りに着手した結果、近隣住民が肥料や野菜作りに携わる関係性を築き、家族からの「畑仕事」の提案が、地域交流に繋がった例もあり（開設当初からコロナ禍であるが）今後も地域との交流を積み重ねるよう、具体的な準備に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目(さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	事業所理念に基づいたケアの実践ができるよう、毎月のユニットミーティングにおいても唱和し、スタッフ全員で理念の再確認を行っている。	理念は事業所開設時に職員が話し合っ て掲げ、普段の業務の中で活かせるよ う具体的な基本方針を定めている。そ れぞれの趣味や意向である「個性を大 切」に出来る事が継続できるよう、対 応・ケアを理念に照らし合わせなが ら意識し、職員全体で理念の実践に取 組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮ら し続けられるよう、事業所自体が地 域の一員として日常的に交流してい る。	コロナ禍による影響で、地域との交流 ができていない現状であるが、可能な 状況になれば自治会の行事や隣接する デイケアの行事に参加させていただ き、交流を持っていきたいと考えてい る。畑仕事や庭でのお茶会時など近 隣の方と話しをする機会を大事にし ている。	コロナ禍にて、開設時から地域交流が 難しい中、自治会長や民生委員に運営 推進会議の報告書を送り、散歩時には 住民と挨拶や話を交わす機会を大切に している。職員の手で荒地を畑にし た経緯があり、近くの住民が肥料や野 菜の手入れに携わる等、良い関係性の 構築に繋がった例がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げて いる認知症の人の理解や支援の方 法を、地域の人々に向けて活かしてい る。	現在、地域の人々に向けた認知症への 理解を深めるような活動は行えていな い。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサー ビスの実際、評価への取組み状況等 について報告や話し合いを行い、そ こでの意見をサービス向上に活かして いる。	コロナ感染拡大防止のため開催できて いない。2ヶ月に一度運営推進会議構 成員へ近況や取組み等の資料を郵送し ている。	運営推進会議の構成員（福祉保健課・ 自治会長・民生委員）に事業所の状況 （利用者状況・医療関係・行事・事故 報告・研修等）を報告書として郵送し ている。今後、会議開催が可能になっ た時、事業所の理解と双方向の意見交 換が出来るよう工夫案を挙げながら準 備に取り組んでいる。	丁寧な送付状を添えた報告書となっ ており、更に行事時の利用者の反応や事 故後の対策や職員の具体的な取組み 等を伝え、質問や意見を表しやすい報 告書の工夫を期待する。また今後、家 族の出席を得た有意義な会議開催とな るよう、現段階から家族への報告書送 付を提案する。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取 り、事業所の実績やケアサービスの 取組みを積極的に伝えながら、協力 関係を築くように取り組んでいる。	疑問や不明点などはすぐに市の福祉課 へ連絡をとり相談し、回答を頂き取 組んでいる。	母体病院との連携とともに福祉保健課 にも相談し、福祉制度が円滑に利用で きるよう市町との関係性を大切にして いる。今後、地域包括支援センターと 情報交換や連携をとり、事業所が地域 で出来る事に取り組む予定である。	

自己評価	外部評価	項目(さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所内において内部研修を行い、3か月に一度身体拘束適正委員会を開催することで、身体拘束排除の事業所方針に沿い安全面など注意を払いながら入居者の見守りや介助方法を考えることができ、現在拘束の事例はない。また、入居者の状態をみながら可能な時には入口ドアの開錠を試みている。	研修や身体拘束適正化委員会にて身体拘束に関する意識を徹底している。定期的に「不適切ケアチェックシート」を用いて客観的に自己点検も行き適切な声かけに関して具体的に検討している。状況をみながら玄関の開錠に取り組み、利用者が外を眺める機会になった例がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	介護職の倫理について、毎月のユニットミーティングにて音読し、一人ひとりが自覚を持ち日ごろから意識しながら声掛け・対応を行っている。また、不適切なケアをしてしまっていないか自己チェックを行ったり、スタッフ同士でも注意していくようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	スタッフの制度に対する理解は十分ではないため、今後の研修の課題とし、学ぶ機会を設けていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、重要事項説明書等読み上げ、説明し同意を得ている。又、不安・不明点は来訪時や電話対応時に随時説明しその都度理解を得ている。重要事項説明書に変更等あった場合には都度書面にて説明し同意書の記入をして頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族来訪時や電話対応時の会話の中から意向・意見・要望等を汲み取り、ケアに反映させている。又、厳しく率直なご意見も頂けるよう、意見箱を設置している。コロナが落ち着けばご家族にも運営推進会議や行事への参加も呼びかけていく予定である。	毎月、本人中心の写真と職員の一言を添えた手紙で家族に近況報告し、管理者が電話の窓口となっており、気になる事や意見を言い易くしている。畑仕事で土を触る・外出時の帽子など要望を実現させ、利用者からお茶の熱さ加減や外出希望など、生活の中での要望をケアに反映させている。	

自己評価	外部評価	項目(さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定例ユニットミーティング等で意見・考え方を聞き、反映させている。必要によって、個別での面談の機会を設けて意見を聞いている。又、普段から相談しやすい環境を作り意見を言いやすいように努めている。	普段から管理者は、職員の思いや質問などを聴き、介護技術に繋がるケアの根拠を伝え、また職員からの業務改善の提案の実現に向けサポートに努めている。シャワーチェアの購入・サービスがより円滑になるような環境替えや昼食時間の変更・排泄チェック表の改善などの例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	コミュニケーションをとり、想いや意見を汲み取り、上司への報告を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月テーマを決め内部研修を行っている。又、外部研修の受講後の研修報告によって、全スタッフのスキルアップに繋がっていくよう進めていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	認知症に特化した呉やけやま病院が隣接しており、診察時や訪問看護の際等に相談しやすい環境にある。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居相談から入居に至るまでの間、見学や面談の機会を設け、その都度本人や家族の意向を聞き取り、納得・安心していただけるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	計画書作成時に家族の不安・心配事等の話を聴き、悩み等解消できるサービスが提供できるよう支援し安心していただくことで、より良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	計画書作成時にしっかり話を聴き、今何が必要なのかを見極め、本人・家族の理解を得るようにしている。訪問歯科や居宅療養管理指導のサービスを取り入れている方もいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	食事の準備や掃除等、一人ひとりの力に応じた作業を提供し一緒にしていただくことで、暮らしを共にする関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族来訪時や電話対応時、入居者の生活情報を伝え共有することで、支え合う関係を築いている。コロナ収束後には、誕生会その他の行事に声を掛け時間があれば参加して頂き、共に楽しんで頂く機会を作っていきたい。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	使い慣れた生活用品等の持ち込みや写真等で、大切にしてきたものとの関係が途切れないようにしている。現在は直接の面会はできないが、窓越し面会や電話対応・手紙等で関係継続の支援をしている。コロナ収束後には馴染みの地を訪れる等行っていきたい。	コロナ禍の中、窓越しやオンラインでの面会や電話・手紙・年賀状のやり取りが出来るよう支援をしている。毎月、やけやま便りと共に、本人写真と職員からの一言を書き添え、郵送している。住んでいた家の辺りや馴染みのスーパーの近くをドライブし、会話の機会となっている。	

自己評価	外部評価	項目(さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人ひとりの性格や感情の変化を理解した上で、居間やソファで楽しんで頂ける時間を作り、楽しく支え合う関係が保てるようサポートしている。又、一緒の家事をして頂くことで、入居者同士が関わりを作り共同生活を送れるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了と共に全ての関係性が終了するのではなく、契約終了後も家族の相談に応じ、関係の継続を大切にしている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時に本人・家族から本人の意向を確認している。入居後も日々の会話の中で思いを読み取るよう努めている。又、意向を伝えることが困難な場合でも、寄り添うことを大切に行動や態度・表情から読み取り、本人のペースに合わせた本人本位の過ごし方を中心に検討している。	日々の関わりの中で話しやすい雰囲気を中心に心掛け、自然な形で個々の利用者の思いや希望を把握している。表出が困難な場合は表情を見ながら、声かけの工夫を行い、個別のケアに反映させるよう取り組んでいる。食べたい物の聞きとりアンケートを行う事もあり、行事などで実現している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に本人・家族・身近な方からできるだけ詳細に情報を収集している。新しく得た情報は随時スタッフで共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	生活歴から本人らしい過ごし方・個別の生活の流れを把握し、支援している。月一のユニットミーティング時にもモニタリングを行い本人の現状の把握に努めている。又、毎日のバイタル測定にて体調の把握にも努めている。		

自己評価	外部評価	項目(さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ユニットミーティングにおいて入居者のモニタリング・評価等を話し合い介護計画に反映させている。計画作成担当者だけでなく、全スタッフや担当医の意見等を基に統合的に計画を作成している。個別ケアで実践しやすいよう、具体的なケアを計画書に反映させている。</p>	<p>月1回のミーティング時にモニタリングを行っている。参加できなかった職員からの意見や医療情報を含め、計画作成者を中心に多角的に行っている。要望に沿った散歩・畑仕事・食器洗い時のすすぐ役割など、心身の状態や生活歴に合わせた個別の介護計画の作成に取り組んでいる。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々のケア記録は都度タブレットに入力し、いつでも閲覧し情報を共有できるようにしている。又、日々のケアでの気付きは申し送りや毎月のミーティングで共有し実践や介護計画に反映させている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>できる限り本人・家族の意向を踏まえ、突発的な受診の対応等家族と連携をとりながら調整し対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>コロナ収束後には、地域行事の参加や地域ボランティアによる催事等交流をもっていきたいと考えているが、現在はまだできていない。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>疾患によって今までの主治医を希望される場合は家族への協力をお願いしている。職員と協力医との間でも情報を共有しながら連携をとっている。</p>	<p>かかりつけ医は母体病院、或いは元的主治医を継続するかを、本人家族が選択しているが、疾患や状態により、かかりつけ医から専門医へ紹介し変更する事もある。往診時の注意事項は、連絡ノートで情報共有を図り、職員は生活の中での変化に気付き適切に医療に繋げるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>看護師より助言や指示を受け、定期的な健康観察を行い日常生活の中での相談事を共有し、適切な診察や介護が受けられるように日程等調整している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院の際は、病院側とは地域移行連携室を通して情報を聞き、家族にもこまめに連絡をとり様子を伺っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居時に重度化対応の指針を示し、施設でどこまで対応できるかを説明するとともに選択肢を示し理解を得るようにしている。重度化した場合には早い段階で家族に伝え、主治医・家族を交え意向を確認し今後の方針についてのカンファレンスを行い、記録に残している。</p>	<p>心身の状態の悪化や終末期においては本人・家族・医師・職員で今後の支援を協議し、適切な施設へ繋ぐよう支援をしている。職員は普段から食事量・水分量、心身機能の維持に努め、変化に伴う本人家族の気持ちに寄り添いながら話し合い、事業所で出来るチームケアに取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>内部研修において、マニュアルを確認しながら緊急時には全スタッフが迅速かつ適切に行動できるよう努めている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>年2回(4月・10月)消防避難訓練を実施。入居者も全員訓練に参加し、誘導の仕方や通信方法を実際に行い再確認している。コロナ収束後には地域の方にも訓練に参加してもらい入居者の見守りや町内会長への連絡係をお願いしたいと考えている。また、災害時にはトイレやお風呂を貸し出すなど、地域へ協力していきたいと考えている。</p>	<p>消防署の協力を得て夜間も想定しながら、年2回の消防避難訓練を行っている。車椅子など様々な移動手段による第一避難所までの所要時間を測り、利用者と共に臨場感をもって行っている。非常持ち出し表の充実や地域との協力体制の実現に向けて、具体的な準備に取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目(さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	毎月のユニットミーティングにおいて介護職の倫理及び接遇を読み合わせることで各自が再確認をし、人生の先輩として敬意をもった接し方をしよう心掛けている。年に一度内部研修にて介護における接遇について職員全員で学習している。	人生の先輩への敬意をもった接し方を基本とし、事業所理念「その人の個性を大切に」にも照らし合わせ、出来ない事をそっと補うよう努めている。申し送り時は、職員間で取り決めた数字やアルファベットを用いてプライバシーに配慮しプライドを傷つけないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己表現がある時はしっかりと話しを聞き、思いや希望をはっきり表現できない時は会話の中で落ち着いて感情や希望等を汲み取り、本人の意向に沿った援助ができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者それぞれのペースを大切に、どのように過ごしたいか、今、何をしたいのかをしっかりと聴いて支援するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	着替えをご自分で選んで頂いたり、訪問散髪の際には本人に希望の長さや形を聞いてカットしてもらうようにしている。また、時折ホットカーラーで簡易パーマをかけたりお化粧品やマニキュアをする機会を設け、おしゃれを楽しんで頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	料理や盛り付けを一緒にすることで、食事をより楽しみにしていただくよう努めている。洗い物等も、自分の役割として喜びとなるように依頼の声掛けをしている。また、入居者に食べたいものをアンケートし行事の時など実際に提供している。	外部業者からの食材や畑で収穫した野菜を用い、昼食は職員と会話しながら出来る事を行い参加している。煮物の材料を見てシチューに変更したり、お好み焼きや季節のご馳走作りを楽しんでいる。団子を丸めホットプレートで焼き名物饅頭風にする等「食」の変化にも取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目(さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事形態や提供量はその方の状態に合わせてその都度変更している。各ユニットのキッチンで調理しているため、その日の状態を考えながら変更した支援ができています。一人ひとりの水分量・食事量は都度記録しているため職員は把握しやすく、支援に繋がっている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>一人ひとりに沿った口腔ケアを毎食後支援している。又、訪問歯科診療にて定期的に口腔チェック・指導を受けている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>毎日の排泄チェック表の記入で一人ひとりの排泄パターンを把握し、出来るだけ失禁前に声掛けをしトイレ誘導ができるように支援している。実際に紙パンツから失禁ショーツへ改善された方もいる。又、仕草や行動から尿意や失禁を読み取り、失禁後も早めに交換できるよう努めている。</p>	<p>歩行・トイレ動作のための筋力維持の体操や、排泄パターン表の改善にも取り組み、排泄の自立に向け支援をしている。声かけによりトイレ排泄が出来る事に着目し、表情や排泄パターン表を見ながら声かけのタイミングを少しずつ早める事により、失敗が無くなった事例もある。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>毎日の排便の有無や便性状、食事量・水分量を見ながら、水分摂取や体操・腹部マッサージを勧めている。排便困難な入居者については、医師の指示のもと内服介助を行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>時間・曜日は一応決めてはいるが、その方の気分や体調に合わせて臨機応変に変更し対応している。又、入居者のタイミングを見ながら声掛けをし、気持ち良く入浴してもらえるように心掛けている。入居者の体調に合わせて、湯舟の湯の温度も変更するなど工夫している。</p>	<p>利用者全員が、浴槽にゆっくり浸かる事が出来るよう、時には二人体制の介助にて可能にしている。個々の状態に合わせて、入浴剤の使用や適切な入浴時間、湯の温度や浸かる高さなど、職員間で話し合い、心地良い入浴になるように取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項 目(さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	日中は居室や共有スペースで各 入居者自由に休息を取っていただ いている。夜間は各居室の室温や 照明を調整し、入眠状態を確認 しながら安眠できるように支 援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	薬状(薬効・用量・用法)は個人 ファイルに綴じるとともにコピー を各ユニットの薬置き場に置き、 いつでも確認できるようにして いる。又、処方内容に変更があ った時には申し送りノートに記 入し情報の共有をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	一人ひとりの生活歴を把握し、 できる事・楽しめる事等を実施 している。学習プリントやパズル 等、その人のできるレベルに合 わせたものを見極めて提供して いる。又、これまでの趣味の継 続(珠算・生け花・習字等)にも 力を入れている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している。	日々の生活の中・会話の中で、 入居者の気持ちに寄り添いなが らその方の気持ちを汲みとる努 力をし、散歩を行っている。又、 隣接の病院受診時には病院の中 庭を散歩する等して気分転換を 図っている。コロナ収束後には ホームの買い物等も入居者と一 緒に行きたいと考えている。	コロナ禍にて行事としての外出 は困難であるが、日常生活の中 で気持ちを汲み取った外出支援 を行っている。通院の帰りに木 々の変化や芝生に触れ、また散 歩で気分転換を図り、役割とし て陽に当たりながら洗濯干し・ 趣味の畑仕事の合間に椅子でお 茶を飲む等の機会を大切にしてい る。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	入居者の金銭管理の取り扱いは していない。個人で買い物をし たり支払いをする機会はない。		

自己評価	外部評価	項目(さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を利用している入居者もいる。電話がかかってきた際には取次ぎもしている。手紙は届けば渡し、読んでもらっている。年末にはレクリエーションとして家族へ年賀状を書き近況を伝えてもらう取り組みもしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の花や皆で作成した壁画等で季節感を感じていただき、職員もその都度声掛けをしている。毎食食事作りをしているので、ご飯の炊ける匂いやおかずのできる匂いを感じてもらっている。冬季は浴室やトイレ等は特に温度差に気を付け快適に使用できるように配慮している。	共同生活スペースで思い思いの居場所で過ごす利用者の様子が、台所から見え、テレビや料理の匂いを話題としており、家庭的な空間となっている。状況によりテーブルの並び替え時も、スペースが広く、どの席からもテレビを観る事が可能で、季節の壁画も貼っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	できるだけ日中は居間で過ごしていただけよう声掛けしているが、共有空間の中でもソファで少人数でゆっくり過ごして頂ける空間を作っている。テーブルや座席の配置等、入居者同士コミュニケーションが取り易いような組み合わせを考え、座っていただいている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時には馴染みのあるものを持ち込んで頂くよう家族にお願いしている。居室の中は本人や家族の意向を踏まえながら、写真を飾ったりその人らしい空間作りの協力をさせていただいている。	居室入口は名前だけでなく今まで活動してきた写真を貼る等、迷わないように工夫をしている。馴染みのある椅子・ソファ等を持ち込み、大切な家族写真・自分の作品等を置き、居心地よく過ごせるよう居室作りを支援している。ベット位置や椅子の位置など転倒予防にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	アセスメントした上で安全面を考慮しながら、その都度持っている能力に応じた行動を見守りながら、居室内のテーブル・椅子・ベッド等の配置を考え、安全に過ごせるよう工夫している。		

V アウトカム項目(さくら) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(すみれ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念に基づいたケアの実践ができるよう、毎月のユニットミーティングにおいても唱和し、スタッフ全員で理念の再確認を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍による影響で、地域との交流ができていない現状であるが、可能な状況になれば自治会の行事や隣接するデイケアの行事に参加させていただき、交流を持っていきたいと考えている。畑仕事中や庭でのお茶会時など近隣の方と話しをする機会を大事にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	現在、地域の人々に向けた認知症への理解を深めるような活動は行えていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ感染拡大防止のため開催できていない。2ヶ月に一度運営推進会議構成員へ近況や取組み等の資料を郵送している。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	疑問や不明点などはすぐに市の福祉課へ連絡を取り相談し、回答を頂き取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目(すみれ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所内において内部研修を行い、3か月に一度身体拘束適正委員会を開催することで、身体拘束排除の事業所方針に沿い安全面など注意を払いながら入居者の見守りや介助方法を考えることができ、現在拘束の事例はない。また、入居者の状態をみながら可能な時には入口ドアの開錠を試みている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	介護職の倫理について、毎月のユニットミーティングにて音読し、一人ひとりが自覚を持ち日頃から意識しながら声掛け・対応を行っている。また、不適切なケアをしてしまっていないか自己チェックを行ったり、スタッフ同士でも注意していくようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	スタッフの制度に対する理解は十分ではないため、今後の研修の課題とし、学ぶ機会を設けていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、重要事項説明書等読み上げ、説明し同意を得ている。又、不安・不明点は来訪時や電話対応時に随時説明しその都度理解を得ている。重要事項説明書に変更等あった場合には都度書面にて説明し同意書の記入をして頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族来訪時は電話対応時の会話の中から意向・意見・要望等を汲み取り、ケアに反映させている。又、厳しく率直なご意見も頂けるよう、意見箱を設置している。コロナ収束後にはご家族にも運営推進会議や行事への参加も呼びかけていく予定である。		

自己評価	外部評価	項目(すみれ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定例ユニットミーティング等で意見・考え方を聞き、反映させている。必要によって、個別での面談の機会を設けて意見を聞いている。又、普段から相談しやすい環境を作り意見を言いやすいように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	コミュニケーションをとり、想いや意見を汲み取り、上司への報告を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月テーマを決め内部研修を行っている。又、外部研修の受講後の研修報告によって、全スタッフのスキルアップに繋がっていくよう進めていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	認知症に特化した呉やけやま病院が隣接しており、診察時や訪問看護の際等に相談しやすい環境にある。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居相談から入居に至るまでの間、見学や面談の機会を設け、その都度本人や家族の意向を聞き取り、納得・安心していただけるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(すみれ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	計画書作成時に家族の不安・心配事等の話を聴き、悩み等解消できるサービスが提供できるよう支援し安心していただくことで、より良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	計画書作成時にしっかり話を聴き、今何が必要なのかを見極め、本人・家族の理解を得るようにしている。訪問歯科や居宅療養管理指導のサービスを取り入れている方もいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	食事の準備や掃除等、一人ひとりの力に応じた作業を提供し一緒にさせていただくことで、暮らしを共にする関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族来訪時や電話対応時、入居者の生活情報を伝え共有することで、支え合う関係を築いている。コロナ収束後には、誕生会その他の行事に声を掛け時間があれば参加して頂き、共に楽しんで頂く機会を作っていきたい。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	使い慣れた生活用品等の持ち込みや写真等で、大切にしてきたものとの関係が途切れないようにしている。現在は直接の面会ができないが、窓越し面会や電話対応・手紙等で関係継続の支援をしている。コロナ収束後には馴染みの地を訪れる等行っていきたい。		

自己評価	外部評価	項目(すみれ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人ひとりの性格や感情の変化を理解した上で、居間やソファで楽しんで頂ける時間を作り、楽しく支え合う関係が保てるようサポートしている。又、一緒の家事をして頂くことで、入居者同士が関わりを作り共同生活を送れるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了と共に全ての関係性が終了するのではなく、契約終了後も家族の相談に応じ、関係の継続を大切にしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時に本人・家族から本人の意向を確認している。入居後も日々の会話の中で思いを読み取るよう努めている。又、意向を伝えることが困難な場合でも、寄り添うことを大切に行動や態度・表情から読み取り、本人のペースに合わせた本人本位の過ごし方を中心に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に本人・家族・身近な方からできるだけ詳細に情報を収集している。新しく得た情報は随時スタッフで共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	生活歴から本人らしい過ごし方・個別の生活の流れを把握し、支援している。月一のユニットミーティング時にもモニタリングを行い本人の現状の把握に努めている。又、毎日のバイタル測定にて体調の把握にも努めている。		

自己評価	外部評価	項目(すみれ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ユニットミーティングにおいて入居者のモニタリング・評価等を話し合い介護計画に反映させている。計画作成担当者だけでなく、全スタッフや担当医の意見等を基に統合的に計画を作成している。個別ケアで実践しやすいよう、具体的なケアを計画書に反映させている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々のケア記録は都度タブレットに入力し、いつでも閲覧し情報を共有できるようにしている。又、日々のケアでの気づきは申し送りや毎月のミーティングで共有し実践や介護計画に反映させている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>できる限り本人・家族の意向を踏まえ、突発的な受診の対応等家族と連携をとりながら調整し対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>コロナ収束後には、地域行事の参加や地域ボランティアによる催事等交流をもっていきたいと考えているが、現在はまだできていない。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>疾患によって今までの主治医を希望される場合は家族への協力をお願いしている。職員と協力医の間でも情報を共有しながら連携をとっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(すみれ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>看護師より助言や指示を受け、定期的な健康観察を行い日常生活の中での相談事を共有し、適切な診察や介護が受けられるように日程等調整している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院の際は、病院側とは地域移行連携室を通して情報を聞き、家族にもこまめに連絡をとり様子を伺っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居時に重度化対応の指針を示し、施設でどこまで対応できるかを説明するとともに選択しを示し理解を得るようにしている。重度化した場合には早い段階で家族に伝え、主治医・家族を交え意向を確認し今後の方針についてのカンファレンスを行い、記録に残している。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>内部研修において、マニュアルを確認しながら緊急時には全スタッフが迅速かつ適切に行動できるよう努めている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>年2回(4月・10月)消防訓練を実施。入居者も全員訓練に参加し、誘導の仕方や通信方法を実際に行い再確認している。コロナ収束後には地域の方にも訓練に参加してもらい、入居者の見守りや町内会長への連絡係をお願いしたいと考えている。また、災害時にはトイレやお風呂を貸し出す等、地域へ協力していきたいと考えている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(すみれ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	毎月のユニットミーティングにおいて介護職の倫理及び接遇を読み合わせることで各自が再確認をし、人生の先輩として敬意をもった接し方をしよう心掛けている。年に一度内部研修にて介護における接遇について職員全員で学習している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己表現がある時はしっかりと話しを聞き、思いや希望をはっきり表現できない時は会話の中で落ち着いて感情や希望等を汲み取り、本人の意向に沿った援助ができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者それぞれのペースを大切にし、どのように過ごしたいか、今、何をしたいのかをしっかりと聴いて支援するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	着替えをご自分で選んで頂いたり、訪問散髪の際には本人に希望の長さや形を聞いてカットしてもらおうようにしている。また、時折ホットカーラーで簡易パーマをかけたりお化粧品やマニキュアをする機会を設け、おしゃれを楽しんで頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	料理や盛り付けを一緒にすることで、食事をより楽しみにしていただくよう努めている。洗い物等も、自分の役割として喜びとなるように依頼の声掛けをしている。また、入居者に食べたいものをアンケートし行事の時など実際に提供している。		

自己評価	外部評価	項目(すみれ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事形態や提供量はその方の状態に合わせてその都度変更している。各ユニットのキッチンで調理しているため、その日の状態を考えながら変更した支援が出来ている。一人ひとりの水分量・食事量は都度記録しているため職員は把握しやすく、支援に繋がっている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>一人ひとりに沿った口腔ケアを毎食後支援している。又、訪問歯科診療にて定期的に口腔チェック・指導を受けている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>毎日の排泄チェック表の記入で一人ひとりの排泄パターンを把握し、出来るだけ失禁前に声掛けをしトイレ誘導ができるように支援している。実際に紙パンツから失禁ショーツへ改善された方もいる。又、仕草や行動から尿意や失禁を読み取り、失禁後も早めに交換できるよう努めている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>毎日の排便の有無や便性状、食事量・水分量を見ながら、水分摂取や体操・腹部マッサージを勧めている。排便困難な入居者については、医師の指示のもと内服介助を行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>時間・曜日は一応決めてはいるが、その方の気分や体調に合わせて臨機応変に変更し対応している。又、入居者のタイミングを見ながら声掛けをし、気持ち良く入浴してもらえるように心掛けている。入居者の体調に合わせ、湯舟の湯の温度も変更するなど工夫している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(すみれ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>日中は居室や共有スペースで各 入居者自由に休息を取っていただ いている。夜間は各居室の室温や 照明を調節し、入眠状態を確認 しながら安眠できるように支援 している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>薬状(薬効・用量・用法)は個人 ファイルに綴じるとともにコピー を各ユニットの薬置き場に置き、 いつでも確認できるようにして いる。又、処方内容に変更があ った時には申し送りノートに記 入し情報の共有をしている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの生活歴を把握し、 できる事・楽しめる事等を実施 している。学習プリントやパズル 等、その人のできるレベルに合 わせたものを見極めて提供して いる。又、これまでの趣味の継 続(珠算・生け花・習字等)にも 力を入れている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している。</p>	<p>日々の生活の中・会話の中で、 入居者の気持ちに寄り添いなが らその方の気持ちを汲みとる努 力をし、散歩を行っている。又、 隣接の病院受診時には病院の中 庭を散歩する等して気分転換を 図っている。コロナ収束後には ホームの買い物等も入居者と一 緒に行きたいと考えている。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。</p>	<p>入居者の金銭管理の取り扱いは していない。個人で買い物をし たり支払いをする機会はない。</p>		

自己評価	外部評価	項目(すみれ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を利用している入居者もいる。電話がかかってきた際には取次ぎもしている。手紙は届けば渡し、読んでもらっている。年末にはレクリエーションとして家族へ年賀状を書き近況を伝えてもらう取り組みもしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の花や皆で作成した壁画等で季節感を感じていただき、職員もその都度声掛けをしている。毎食食事作りをしているので、ご飯の炊ける匂いやおかげのできる匂いを感じてもらっている。冬季は浴室やトイレ等は特に温度差に気を付け快適に使用できるように配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	できるだけ日中は居間で過ごしていただけるよう声掛けしているが、共有空間の中でもソファで少人数でゆっくり過ごして頂ける空間を作っている。テーブルや座席の配置等、入居者同士コミュニケーションが取り易いような組み合わせを考え、座っていただいている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時には馴染みのあるものを持ち込んで頂くよう家族にお願いしている。居室の中は本人や家族の意向を踏まえながら、写真を飾ったりその人らしい空間作りの協力をさせていただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	アセスメントした上で安全面を考慮しながら、その都度持っている能力に応じた行動を見守りながら、居室内のテーブル・椅子・ベッド等の配置を考え、安全に過ごせるよう工夫している。		

V アウトカム項目(すみれ) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームやまびこの里

作成日 令和4年5月16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	コロナ禍にて運営推進会議の構成員に事業所の状況を報告書として郵送しているが入居者のご家族へ郵送していませんでした。	運営推進会議を開催できない現状であっても、ご家族へも報告書送付をする。	事故後の具体的な対策や職員の取り組み等を伝え、質問や意見を表しやすい報告書に工夫しご家族へも送付する。	6ヵ月以内
2	13	年2回の避難訓練時、職員・入居者全員参加で避難訓練しているが、実際に災害が起きた時の避難の想定が甘かった。	実際に災害が起きた時を想定し、避難訓練を実施する。	職員・入居者のみの避難だけでなく避難グッズも持ち出したり、避難済かどうかパッと見でわかるような工夫をしていく。	6ヵ月以内
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。